

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 二次性三尖弁閉鎖不全症に対する三尖弁形成術の人工弁輪の種類別の予後の差に関する研究』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 心臓血管外科 職位・氏名 教授・尾崎 重之

### 【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院心臓血管外科では、二次性三尖弁閉鎖不全症の患者さんに対し行われる、三尖弁形成術で用いられる人工弁輪の種類別の有用性の検証を目的として本研究を計画しました。当院では 2003 年からフレキシブルリングを使用していましたが、一般的にリジットリングの成績・予後が良好との報告が多く、2007 年より当院でもリジットリングを使用しました。しかしリジットリングによる裂開の報告を受け、2009 年より当院ではフレキシブルリングの使用が一般化しました。本研究では 2008 年以降での二次性三尖弁閉鎖不全症に対する三尖弁形成術後の中期成績をリジットリング 15 例とフレキシブルリング 88 例で比較検討し、治療の有用性を検証します。

この研究で得られる成果は、二次性三尖弁閉鎖不全症の術後の予後改善につながります。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2004 年 7 月 1 日～2021 年 5 月 31 日までに東邦大学医療センター大橋病院心臓血管外科において、僧帽弁疾患・大動脈弁疾患に対し手術を行った中で二次性三尖弁閉鎖不全症の診断にて三尖弁形成術を受けた方、103 例。

方 法:診療録(カルテ)から抽出したデータを、使用した人工弁輪の種類によって患者さんをわけて解析し、その特徴を調べます。

### 【研究に用いられる試料・情報】

情報:年齢、性別、病歴、治療歴、心エコー検査データ、術後の状態等

### 【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 心臓血管外科

職位・氏名 助教・清原 久貴

電話 03-3468-1251 内線 7378